

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気ウォッチャー調査(2006年2月)

発表日：2006年3月8日(水)

～ 改善傾向続く ～

(No. J - 249)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

TEL : 03-5221-4528

	景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)				
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	
05年	1	45	44.3	43.1	53.5	48.3	48.1	46.5	53.2	40.2	37.8	40.3	55.3
	2	45.6	44.1	46.2	54	49.9	50.1	48.1	52.5	40.4	37.3	43.4	54.4
	3	49.5	48.3	50.1	56.4	49.8	49.9	47.5	54.2	44.2	42	46.1	54.9
	4	49.8	49	50.6	53.6	50.3	49.9	49.7	54.3	44.9	42.9	47.4	52.8
	5	50.3	49.7	50.1	55.1	51.9	51.6	50.7	56.2	45.1	43.5	46.1	53.5
	6	50.9	50.4	49.3	57.4	51.2	50.3	51.1	57.4	46.6	45.2	47	55.5
	7	50.4	49.3	49.7	58.8	52	50.9	52	58.4	45.8	43.6	46.9	57.1
	8	50.5	49.1	50.9	59.5	51.9	50.7	51.4	61	46.3	44.4	47.7	56
	9	51.7	49.6	53.2	62.1	53.1	52.4	52.3	59.1	47	44.2	50.3	58.4
	10	50.7	48.5	52.6	60.9	53.4	52.8	52.7	58.7	47	43.9	50.3	59.5
	11	52.9	51.3	54.3	60.5	52.4	51.7	52.3	57.4	48.8	46.4	51.2	59.1
	12	55.7	54.8	55.7	61.1	53.6	52.6	53.3	60.2	51.5	50	52.9	58.5
06年	1	52.1	50.5	52	62.9	56.4	55.9	55.5	62	48.2	45.5	50.4	60.3
	2	53.5	51.6	55.1	62.4	56.6	56.3	55.7	61	49.7	47	52.3	61

前年差

05年	1	▲ 3.6	▲ 2.6	▲ 6.1	▲ 5.6	▲ 2.9	▲ 2.0	▲ 4.7	▲ 6.2	▲ 0.3	▲ 1.1	▲ 0.9	4.9
	2	▲ 4.5	▲ 4.0	▲ 5.1	▲ 6.9	▲ 3.7	▲ 2.9	▲ 3.6	▲ 9.2	▲ 1.9	▲ 2.9	▲ 0.2	1.0
	3	▲ 4.2	▲ 3.1	▲ 5.3	▲ 8.7	▲ 3.8	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 8.9	▲ 1.4	▲ 1.1	▲ 2.2	▲ 2.2
	4	▲ 5.9	▲ 4.3	▲ 8.1	▲ 11.9	▲ 5.0	▲ 4.2	▲ 5.6	▲ 8.9	▲ 2.9	▲ 2.3	▲ 4.2	▲ 4.6
	5	▲ 2.5	▲ 0.8	▲ 5.0	▲ 8.5	▲ 3.1	▲ 2.5	▲ 3.3	▲ 7.0	▲ 0.3	0.7	▲ 1.8	▲ 3.9
	6	▲ 0.5	1.4	▲ 4.7	▲ 5.2	▲ 2.9	▲ 3.0	▲ 1.9	▲ 5.0	1.5	3.1	▲ 1.5	▲ 3.5
	7	▲ 3.9	▲ 3.1	▲ 6.2	▲ 5.2	▲ 1.4	▲ 0.7	▲ 2.5	▲ 4.8	▲ 2.9	▲ 2.8	▲ 4.0	▲ 2.1
	8	▲ 0.2	1.3	▲ 2.0	▲ 6.2	0.2	0.4	0.3	▲ 0.9	1.5	3.1	▲ 0.3	▲ 5.9
	9	4.4	5.0	3.5	1.1	3.1	3.1	3.2	1.8	4.3	5.4	3.0	▲ 1.5
	10	4.3	4.9	4.4	▲ 0.4	4.6	5.0	5.7	▲ 0.3	5.6	6.1	5.4	1.6
	11	7.6	8.2	8.3	2.1	6.6	6.5	8.3	4.3	7.9	9.5	6.3	0.3
	12	11.5	11.4	13.1	8.3	9.6	9.2	10.2	10.6	10.8	11.8	10.8	4.2
06年	1	7.1	6.2	8.9	9.4	8.1	7.8	9.0	8.8	8.0	7.7	10.1	5.0
	2	7.9	7.5	8.9	8.4	6.7	6.2	7.6	8.5	9.3	9.7	8.9	6.6

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

○ 底堅い結果

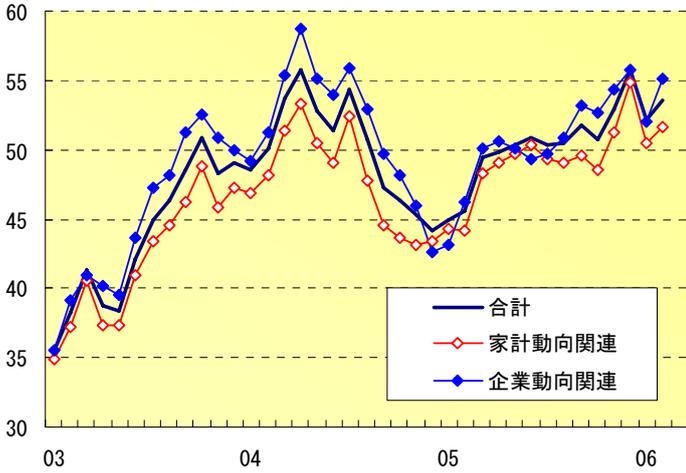
本日公表された2月の景気ウォッチャー調査によれば、現状判断D I (方向性)は53.5と前月差+1.4ポイントの改善、先行き判断D Iは56.6と同+0.2ポイントの改善となった。また、景気の現状判断D I (水準)は49.7と同+1.5ポイントの改善となっている。現状判断D I (方向性)は1月に比較的大きな悪化となっていたが、2月にある程度取り戻した格好だ。

なお、1-2月平均でみると10-12月期から伸びが鈍化しているが、これは昨年11、12月の上昇幅が非常に大きかったことから、その反動が出たとみるのが妥当だろう。ある程度均して判断した方が良いと思われる。①現状判断D I (方向性)は10ヵ月連続で「景気に中立」を意味する50を上回っていること、②先行き判断D Iは高水準だった前月からさらに改善しており、景気の先行きに関して楽観的な見方が増えていること、などを考慮すれば、1-2月はむしろ良好な結果であると判断できる。このように、家計部門、企業

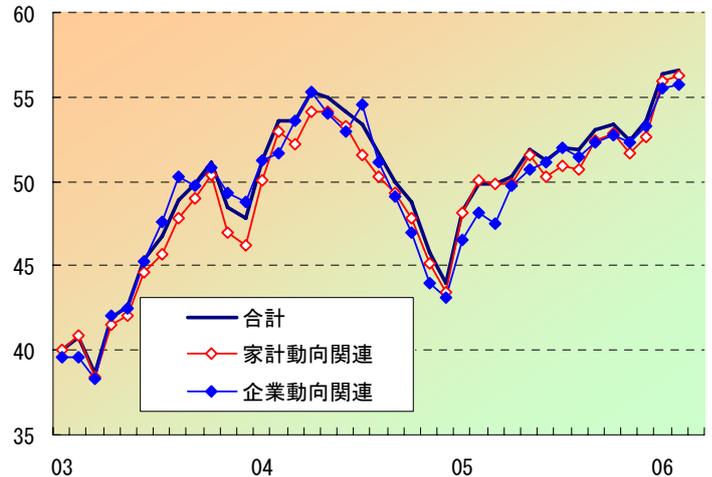
部門ともにマインドは着実に改善していると判断できる。内外需のバランスのとれた成長が続いていることや、雇用所得環境の緩やかな改善が続いていることなどが背景にあると考えられる。

以上から、1-3月期の景気に関しては、かなりの高成長となった2005年10-12月期と比べれば伸びはさすがに鈍化せざるをえないが、比較的底堅い結果になることが予想される。10-12月期と1-3月期を均してみれば、日本経済は踊り場を脱出し、成長ペースを徐々に高めている姿が確認できるだろう。

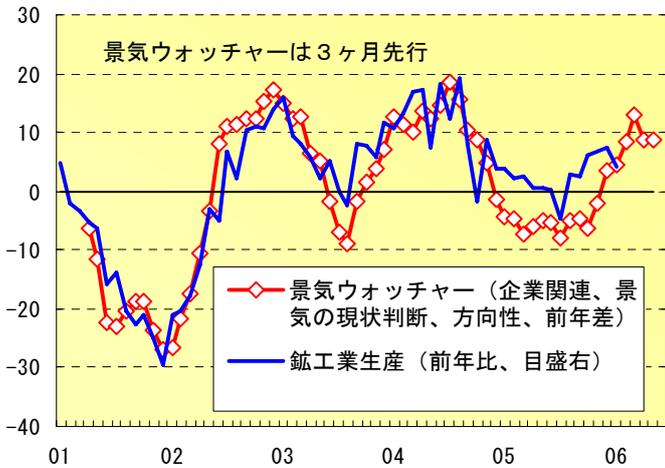
景気の現状判断DI (方向性)



景気の先行き判断DI (方向性)



景気ウォッチャー調査 (企業関連、方向性) と 鉱工業生産



(P) 景気ウォッチャー調査 (企業関連、水準) と 鉱工業生産 (%)

